

12

次代につなげる持続可能な社会づくり推進プロジェクト

概要

地域において、エネルギーの地産地消や省エネ性能に優れた住宅の普及といった暮らしに密着した脱炭素化、人や社会・環境に配慮したエシカル消費等の取組、循環型社会の形成の推進など、人と自然が共生する環境にやさしい地域づくりを進め、次代につなげる持続可能な社会を実現する

重点
施策

- 42 脱炭素社会の実現に向けた地域づくりの推進
43 人と自然が共生する環境にやさしい地域づくりの推進

(1) 成果指標の状況

成果 指標	進捗状況	指標数	主な指標
	★★★★★(目標を達成)		
	★★★★(計画を上回る)	1	再生可能エネルギーの発電出力
	★★★(ほぼ計画どおり)	1	犬猫の引取り数
	★★(計画を下回る)	1	山口県認定リサイクル製品数(累計)
	★(計画から大幅に遅れ)		

(2) 県民実感に係る調査結果

調査区分	調査項目	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
県民実感度調査 (%)	住宅への太陽光発電の導入や省エネ性能に優れた住宅の普及など、暮らしに密着した脱炭素化の取組が進んでいると思いますか。	20.2	50.1	27.9
	廃棄物のリサイクルの推進など、環境にやさしい地域づくりが進んでいると思いますか。	32.7	45.3	20.2

(3) 主な取組と成果

◆脱炭素社会の実現に向けた地域づくりの推進

- 脱炭素の大切さを気軽に学べる謎解きイベントの開催や県独自のスマホアプリを活用した脱炭素型ライフスタイルへの行動変容促進など、「2050 ゼロカーボン・チャレンジ」と銘打った県民運動を展開。

ぶちエコやまぐち宣言数：6,632件(R3年度)→14,139件(R7年度)

- 分散型エネルギー活用の実証や再生可能エネルギー電力の利用に積極的な事業所の認定制度の運用、森林バイオマスの利用促進、水力発電を活用した「やまぐちぶちエコでんき」の供給などによりエネルギーの地産地消を推進するとともに、ZEHの導入支援などにより**再生可能エネルギーの発電出力258万kW(R7年度)を実現。**

(目標：246万kW(R8年度))

- 山口県企業局の水力発電による電気を県産CO₂フリー電気として付加価値を付けた「**やまぐちぶちエコでんき**」の供給。(R7年度実績：17,789MWh、36社61事業所)

◆人と自然が共生する環境にやさしい地域づくりの推進

- 地域に根差した活動を行っている消費者団体による**エシカル消費・消費のSDGs普及啓発講座受講者数が5,800名突破。**(累計2,341名(R3年度)→5,894名(R7年度))

- 産学公連携による産業廃棄物3R(リデュース、リユース、リサイクル)の事業化検討など、廃棄物の3R等の技術開発から施設整備、普及拡大まで切れ目ない支援等を実施。

3R等推進事業補助実績：5件(R7年度)

地域循環圏活性化事業補助実績：2件(R7年度)

- 生物多様性やまぐち戦略（期間：R6 年度～R12 年度）に基づいて、多様な生態系の保全と健全性の回復に向けた取組を実施し、**県内で「自然共生サイト」に5箇所認定**。（同戦略における環境指標：0 箇所（R4 年度）→7 箇所（R12 年度））
- 終生飼養等の動物の適正飼養の普及啓発や動物愛護管理法に基づく所有者不明猫の引取り要件の厳格化等により、**犬猫の引取り数を453匹減少**。（863匹（R3 年度）→410匹（R7 年度（目標：減少させる）））

(4) 総評

総
評

再生可能エネルギーの導入や、エシカル消費・消費のSDGs普及啓発講座の受講者数が着実に増加するなど、全体としては順調に進捗しており、引き続き、あらゆる分野において、社会全体で連携して地球温暖化対策を進めるとともに、循環型社会に向けた取組等を一層推進することが求められている。

(5) 課題と今後の展開方向

課
題
と
今
後
の
展
開
方
向

◆脱炭素社会の実現に向けた地域づくりの推進

- 脱炭素社会の実現に向けて、スマホアプリ等のデジタル技術を活用した実践行動の定着に加え、若年層向けの環境学習の実施等による次世代を担う人材育成など、県民総参加による地域脱炭素化の取組を推進する必要がある。
- 家庭・事業所の省エネ化及び地域の特性を活かした、再生可能エネルギーに蓄電池等を組み合わせた分散型エネルギーシステムの構築や、次世代太陽電池の需要創出に向けた県有施設への導入、地域課題解決につながるエネルギーマネージメントの推進など、エネルギーの地産地消の取組を推進する必要がある。
- 水力発電の供給力向上に向けて、水資源の更なる有効活用を図るため、ダム運用高度化等の検討を進める必要がある。
- 廃棄物部門の温室効果ガス排出量削減のため、プラスチックの回収及び再資源化を促進する必要がある。

◆人と自然が共生する環境にやさしい地域づくりの推進

- 徹底した資源循環に向け、事業者や関係団体等と連携の上、県民のライフスタイルの転換や事業者等の環境に配慮した事業活動などの行動変容に繋げるとともに、事業者間連携による循環利用の取組を促進し、循環型社会に向けた取組を推進する必要がある。
- エシカル消費の認知度が伸び悩みの傾向にあることや、マイバッグ持参以外の取組の実践率が低いことから、消費者団体や「やまぐちエシカル推進パートナー」等の事業者と連携した普及啓発等に取り組むとともに、地球温暖化対策や食品ロス対策などの関連施策と連携して相乗効果を高めるなど、環境や社会に配慮した消費行動の日常的な実践・定着に向けた取組を推進する必要がある。
- 県民、企業・団体の生物多様性に関する理解や保全活動への参加促進に向けて、やまぐち生物多様性センターの情報収集や地域・民間連携の斡旋機能等を生かした取組を強化する必要がある。
- 引取り数の更なる減少に向けて、犬猫へのマイクロチップ装着などの所有者明示措置や感染症対策、不妊去勢処置等による終生・適正飼養の促進や、活動支援者の養成等による地域猫活動の促進を図るとともに、譲渡可能な月齢となるまでの幼齢犬猫の飼育管理や、高度な医療措置が必要な負傷犬猫を救うための取組が必要である。

(参考) 令和8年度の主な新規・拡充取組

新 **ぶちエコやまぐち省エネ家電等購入支援事業**

家庭におけるエネルギー費用負担等の軽減を図るため、熱中症対策や家庭部門の温室効果ガス排出削減にも資する省エネ性能の高い家電製品等の購入を支援

新 **ぶちエコやまぐち3R+（ぱらす）推進事業**

徹底的な資源循環の推進に向け、事業者・大学と連携し、様々なフィールドや環境学習の場を活用し、県民の3R+への行動変容を促進

新 **動静脈連携・高度化による資源循環 促進事業**

サーキュラーエコノミーへの移行に向け、動静脈連携の促進や、動静脈産業を対象とした、技術開発から事業化検討、普及拡大まで切れ目ない支援による資源循環ビジネスの事業化により、製品の設計・製造から再資源化に至るライフサイクル全体における徹底的な資源循環を促進

新 **地域で守る小さな命！やまぐち犬猫支援事業**

地域のボランティアや動物病院と連携した幼齢犬猫のミルクボランティア、負傷犬猫の救護、地域猫活動の推進により、小さな命を地域で守り育てる取組を促進